

大 幡

スローガン

“向こう三軒両どなり”支えられたり 支えたい
住みたくなる町 大幡

実践目標①あいさつ運動からはじまる近隣のつながりづくり

実践目標②みんなが集う楽しいまちづくり

実践目標③防災に対する住民の意識づくり



大幡地区は、市内でも人口や児童数が多い地域で、2ヶ所の児童養護施設もあります。地形的には高台に位置し、ダイハツ九州アリーナは、災害時の大規模な避難所としての役割を担う場所になっています。

住民福祉活動では、以前より、給食ボランティアや住民型有償サービス活動があり、最近では週一体操の取り組みも盛んです。

また、平成20年より大幡の地域福祉を推進する組織として、地域福祉ネットワーク協議会「大幡福祉の会“輪”」が、社会資源調査や情報発信を行なっています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	8,779	8,860	9,070
世帯数	3,741	3,837	4,131
高齢化率	21.9%	25.8%	28.0%
一人暮らし高齢者	666	753	860
高齢者のみの世帯		1,686	1,847
0~18歳人口	1,922	1,956	1,905

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と理由・効果

実践目標①

あいさつ運動からはじまる近隣のつながりづくり

「高齢者や子ども、親世代など住民同士が交流する機会や場がない」「人との関わりや外出する機会が持てず、家に閉じこもりがちで寂しさ（孤独感）を感じている人がいる」などの問題点から、近隣に住んでいながら住民同士のつながりが年々希薄になり、新しく大幡の住民になる人も増える中、住民同士のコミュニケーションが不足しているという意見があがりました。身近なつながりづくりには、普段の暮らしの中で、住民同士がお互いに気にかけて意識を持つことが大切です。お互いに気にかけて助け合う関係づくりは、住民同士の連帯感を高めることにつながります。

実践目標②

みんなが集う楽しいまちづくり

「お祭りや盆踊りがなくなった地域がある」「子どもは習い事、親は共働きで忙しいため交流の機会が持てない」などの問題点が上がりました。多世代で楽しめ、みんなが集う場と言えば、昔からのお祭り（仲秋祭）や盆踊りでしたが、年々参加者が減り、行事が尻すぼみになっています。そんな地域を皆で盛り上げていくためには、大幡地区の住民みんなが笑顔で集い、楽しめる場が必要です。多世代でつくる交流の場は、希薄になっている住民同士のつながりづくりにもつながります。

実践目標③

防災に対する住民の意識づくり

「大きな災害は起きないと思っている人がいる。」
大きな災害の経験がない故の安心感が、必要な備えや防災意識を持つことを邪魔し、訓練を知らせる回覧や広報に対して、関心がない人が多いことが問題として上がりました。そのような意識を変えていくためには、防災に必要な情報共有をしっかりと行い、まずは防災に関する意識づくりを行うことが大切です。他人事でなく、大幡地区の住民みんなが危機感を持ち、防災に関する意識が高まれば、災害が起こった時に、住民同士が助け合える関係づくりにつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

ボランティア活動の情報発信
(若い世代へ伝えたい)

防犯パトロールの
人材確保

ボランティア活動
への参加促進
(若い世代に参加
してほしい)

何をするにも
リーダーが必要!



【大幡】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
あいさつ運動からはじめる					
住民同士で相談しやすい方法や場所をつくる					
交流する機会が増えるように若い世代への呼びかけ方法を工夫する					
子ども会や自治会に入るメリットをはっきりさせる					
家に独りで閉じこもりがちな高齢者に老人会への加入を促す					
コミュニティセンターまつりを盛り上げる					
若い世代が集まりやすい行事に高齢者も誘う（参加してもらう）					
昔からある地域の行事の盆踊りを大幡全体で開催する					
子ども中心のイベントを開催する					
門松、しめ縄作りなど伝統行事をPRする					
若い世代へのボランティアの関心・動機付けを行う					
世話人が増えるように活動目的などについて意見交換する場を作る					
趣味を活かした活動をつくる					
男性が気軽に集える場をつくる					
歩いていけるサロン→班単位でサロンを開催する					
訓練は自治区よりも小さい班や講合の単位でやる					
実際あった大きな災害の情報を発信し、意識付けをする					
今ある避難訓練を続けていく（自治区、班、自主防災組織 主催）					
自治区で訓練を持ち回り開催する					
大幡全域での訓練を実施する					
目的や内容をしっかり決めて訓練を実施する					
実際の避難場所であるダイハツアリーナへの避難訓練を実施する					

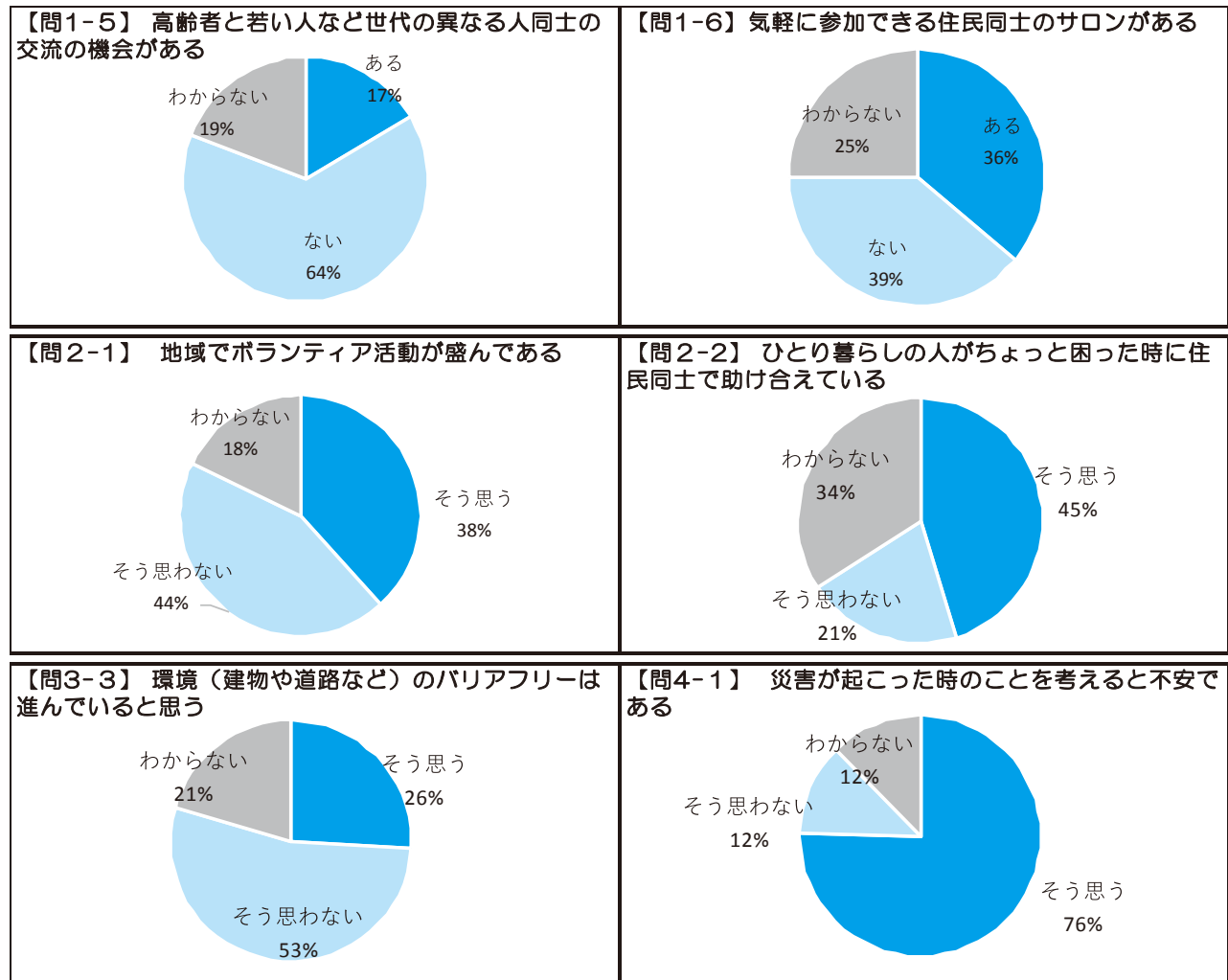


第4次の実践目標はこうして決まりました

大幡地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	74人（男性46人/女性27人/無回答1人）
回答者年代	中学生・高校生：6人、20代：1人、30代：1人、40代：1人、50代：1人、60～64歳：3人、65～74歳：32人、75歳以上：28人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・障がい者についてもっと知る機会、障がい者の気持ちをうまく伝えられる場が必要
- ・ボランティアの活動内容を知ってもらうことが大切。その上で、ボランティアを募集する
- ・困った時にサインが気軽に出せる、助け合える関係をつくる
- ・認知症への対応を学べる場、対応の勉強の機会をつくる
- ・ひきこもりの人とその家族との交流を含めた実態把握が必要
- ・防犯パトロールの活動回数を増やす
- ・空き家の持ち主への対応が必要
- ・全てのゴミステーションにゴミの出し方の表示をする
- ・高齢者向けにインターネットやスマートフォンを学ぶ場を作り情報が得られやすくする
- ・近所の方が買い物などに行く時に誘い合う取り組みができると良い

作業部会で出された、大幡の地域福祉活動の良いところ

- 老人会やグランドゴルフ、公民館活動が交流の場や機会となっている
- 週一体操、サロン、給食ボランティアなどがしっかり活動している
- 自治委員、民生委員を中心に、地域で気になる人に声をかけあっている
- 自主防災組織がある
- 自治区、班、自主防災組織で避難訓練を実施している
- ふれ合い清掃活動などにたくさんの人が参加している
- 防犯パトロールや登下校時に見守り活動をしている
- 老人会と近くのこども園が交流している
- 子育て支援センターこもんがある



様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



大幡の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン(2)	黒水ふれあいいいきいきサロン(月1回・黒水生活改善センター) 榊原元気クラブ(毎月25日・榊原公民館)
	週一体操教室(5)	中原のぞみ会週一体操(毎週木曜・中原公民館) 大悟法週一健康体操(毎週金曜・大悟法老人憩いの家) 稲尾健康体操クラブ(毎週火曜・稲尾集会所) 大幡元気・いきいきく週一体操(毎週水曜・大幡コミュニティセンター) 八幡ほがらか健康クラブ(毎週水曜・八幡町集会所)
ボランティア活動	給食ボランティア	ひまわりの会(第2・4木曜・八幡町集会所) さくら(第4水曜・大貞公園集会所) みすみ会(第3水曜・大悟法老人憩いの家)
住民型有償サービス		大幡まこもサービス
防災活動		自主防災組織、中津市防災士協議会大幡部会、消防団
防犯活動		防犯パトロール協議会 自主安全協会パトロール隊

関係機関主催の交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェ	地域包括支援センター いずみの園	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
こども食堂・やわらぎダイニング	児童家庭支援センター 「和(やわらぎ)」	ひとり親世帯など 毎月第2・4日曜日

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター(高齢者相談支援センター)いずみの園
子育てに関する相談窓口	児童家庭支援センター「和(やわらぎ)」 大幡子育て支援センター「こもん」
民生児童委員による心配ごと相談窓口	毎月第1木曜 13:00 ~ 16:00 大幡コミュニティセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口(P.153参照)にお問い合わせ下さい